

青少年期のスポーツ参画におけるメディアのもたらす影響

The influence that the media brings to young people who participate in planning sports.

1K10C320-5 西村 光

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 深見 英一郎先生

【序章】

この世に数多のスポーツが存在するが、そのスポーツを知ることになったきっかけは人それぞれである。スポーツを知るきっかけの一つに、メディアという媒体が挙げられる。

1950年代中頃、力道山のプロレス中継を観たいがために、街中の人々が街頭のテレビに群がったという話は有名な話である。このようにスポーツとテレビは、テレビ放映が開始された当初から深い関係があり、今もなお切り離すことのできないものである。また、マンガというメディアもスポーツとの深い関係があり、「キャプテン翼」はその一例といえよう。

このようにスポーツとメディアはとても強い結びつきを持っている。このことから、スポーツ人口を増やすための戦略としてメディアを有効に活用する方法が考えられる。そこで本研究では、スポーツメディアによってスポーツ人口が増えているのかどうかについて明らかにするために、スポーツ中継、マンガ・アニメ、ドラマの3つの視点から、青少年期のスポーツ参画にスポーツメディアがどのような影響を与えたかについて検討することを目的とした。

【第1章】メディアで取り上げられたスポーツ

第1章では、スポーツ中継で取り上げられたスポーツを年代ごとにまとめた。東京オリンピックでは様々な種目がカラーで放映され、日本のスポーツ中継を大きく変えるきっかけとなった。東京オリンピックでの女子バレーボールの日本戦の視聴率は未だに破られない記録となっており、高い人気を誇っていた。

1960年ならびに1970年代はプロ野球も流行し、「ON時代」と呼ばれた長嶋茂雄と王貞治が野球界における不動のヒーローであった。それに立ち向かうライバルたちという構図が野球界をさらに盛りあげることとなった。また同時期に人気があったスポーツにプロレスもあげられ、戦後という時代背景も重なり、かなりの人気スポーツとなっていた。

1980年ならびに1990年代になると様々なスポーツが台頭するようになり、その中でもJリーグ開幕はサッカー人気に火をつけることとなった。2000（平成12）年を過ぎると、女性アスリートたちの活躍も著しくなり、「なでしこジャパン」という言葉が流行したように、女子サッカーの人口は増えて

いる。

【第2章】スポーツを題材としたマンガ・アニメ

第2章では、スポーツを題材としたマンガ・アニメについて検討した。1960年ならびに1970年代は、「巨人の星」を代表とする「スポ根マンガ」が流行した。この頃のスポーツ指導は根性論が主流であり、そのような物語が人々に感動を与えたのである。1980年代には、「キャプテン翼」が日本だけでなく世界中の人にまで影響を与えた。そして、「タッチ」は、今までのスポーツマンガにない青春ドラマをテーマとした作品であった。

また、1990年代になると、「SLAM DUNK」のようなよりリアルリティのある作品が連載され、その影響を受けてか、バスケットボールの人口が飛躍的に伸ばした。そして、2000年代にはスポーツマンガは細分化され、今まで知らなかったマイナースポーツのマンガや今までとは違った角度から語られるスポーツマンガなどさまざまなジャンルのスポーツマンガが増えた。「アイシールド21」や「GIANT KILLING」などはその典型で、読み手に選択肢が多くなったといえよう。

【第3章】スポーツを題材としたドラマ

第3章では、スポーツを題材にしたドラマを年代ごとに検討した。1980年代に流行した「スクールウォーズ」はまさに「スポ根」をテーマとしたドラマであり、視聴者に多くの感動を与えた。これはラグビー人口の増加にもつながり、影響力も大きかったといえる。

2000年代は、「がんばっていきまっしょい」（ボート）や「ブザービート〜崖っぷちのヒーロー〜」（バスケットボール）などは、スポーツを題材としながらも、スポーツの場面より友情や恋愛といった人間ドラマを中心に描かれた作品が多くみられた。このドラマが放映された時期は、女子のボート部の人口も男子のバスケットボール部の人口も微増であった。

【結章】

本研究ではスポーツメディアについて検討した。その結果、世代間によってスポーツメディアのムーブメントの大きさが異なるということがわかった。メディアの多様化によって「力道山」や「キャプテン翼」、「SLAM DUNK」のような大きなムーブメントは今後起きにくいと考えられる。